

Vol. 87



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 桑波田 和子
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (一財)千葉県環境財団業務部
 環境活動支援課
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

「エコメッセ2012inちば」開催お礼

エコメッセちば実行委員会 実行委員長 桑波田 和子

初秋の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたびは、9月17日の「エコメッセ2012inちば」にご出展・ご来場いただき、誠にありがとうございました。環パちばの多くの会員の皆さまにも、ご出展・ご来場いただきました。おかげさまで、来場者は12,000人、約140団体の出展があり、子供から大人まで幅広い年代の方々が参加されるなど、盛況に開催することができました。これもひとえに、皆さまのご支援、ご協力の賜物と深く感謝しております。

出展ブースでは、来場者が環境への気づき、楽しく学べる場をご提供していただき、出展分野も、温暖化防止、循環型社会、生物多様性、ものづくりなど多岐にわたり、里山・水探検館・まるゴミ・新エネルギー・エコカーなど多くの体験・学びの場となりました。

今年は、恒例の「環境活動見本市」に加えて、新たに、企業や市民団体・行政など団体同士の連携・協働による取組みを促進するため「環境協働創造市」も開催しました。参加団体から自分たちができること、一

緒にやりたいこと・やれることなどが提案され、エコメッセの場を活用した様々な交流が行われました。まさに、今年のテーマである「つながれ ひろがれ エコメッセ」への第一歩が踏み出されたのではないのでしょうか。実行委員会としても、今後の連携・協働による取組みの展開に期待し、これからもご協力申し上げます所存です。

エコメッセは毎年、市民・企業・行政等の実行委員がボランティアで企画・運営しております。また、当日運営には、実行委員会が公募した60名以上のボランティアの方たちにもご協力いただきました。

エコメッセを通して、持続可能な社会に向けて一緒に歩んで行けたら幸いです。今後とも、皆さまのご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げますとともに、来年のエコメッセで、またお会いできることを楽しみにしております。 敬具



環境協働創造市を同時開催

エコメッセちば実行委員

会交流部 宮下 朝光

今年の特徴は、「環境協働創造市(そうそういち)」という新しい取組みをスタートさせたことです。

分かりにくい名前かもしれませんが、団体同士が出会い、情報交換をして、できること、やりたいことを提案し合い、協働取組を恒常的に創り出していくためのお手伝いをエコメッセちば実行委員会が行うものです。

エコメッセの輪を拡げ、協働取組を増やし、その普及・啓発効果で「持続可能な社会の実現」に少しでも近づけていくことを目指しています。

国際会議室では、「まるごみJAPAN」を開催しました。午前中県内数か所でゴミ拾いが行われ、午後からエコメッセに合流し、熊谷市長や桑波田実行委員長等パネラーとしての環境トークショー等がありました。協働取組の1例ですが、若い世代の参加者が多いこと、双方のスタッフもお互いの活動に刺激を受け、視野を広げることができました。

コンベンションホールでは、見本市に出展した創造

市参加団体を特定ゾーンに集め、団体同士で交流が図れるように配置しました。間近で参加団体の活動を見ることができ、担当者間の交流が進みました。

202会議室では、ワークショップ(概要説明)を行うとともに、千葉県が進めている「企業とNPOによるパートナーシップ事業」担当者と連携して運営しました。県事業に興味を示す企業と打ち合わせができ、一定の成果がありました。

また、創造市参加団体の情報や、「できる・やりたい」を具体的に書いた「マッチング提案書」を掲示しました。興味を持たれた方はかなりいて、持って行かれた提案書コピーは全体で150枚以上となり、間違いなく需要はあると感じました。地元CATVやインターネット系の取材もあり、創造市について説明・PRすることもできました。

環境協働創造市は、エコメッセ終了後も登録された団体間で、マッチング提案書を基に双方の交流を継続していきます。

～新しいテーマ～川と水の探検館～

会場中2番目に大きいテーマ館の201号室で、県土整備部河川環境課が音頭を取り「川と水の探検館」が行われた。

このテーマは、17年間のエコメッセでは多分初めてであろうし、これに近いものもなかったであろう。ちなみに、過去3年のテーマは、2009年「千葉の里山・田舎暮らし物産展」、2010年「千葉の里山・田舎暮らしエコバザール」、2011年「森の資源館」と里山系が続いた。

これは、千葉県のエコロジーのテーマとして、川水系がより一般化しつつあること、里山系が安定期に入り次の模索をしていることなどが考えられる。来年もこのテーマが続くのか、新しいテーマが浮上するのか、興味深いことである。

さて、本題の「川と水の探検館」の中味であるが、これは以下を目指している。

① 千葉の河川・海・暮らしの中の水と環境団体の活動を知る。

② 水に触れる楽しさ・水辺の楽しさを感じてもらう。

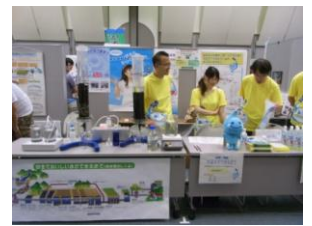
③ 印旛沼などを始めとした、水循環健全化・水環境再生の取り組みを知る。

出展団体は、千葉県庁内組織7、協議会や組合5、市民5、学生5、企業1の合計23団体。総ブース面積128㎡。

川・水系は里山系に比べ、「お堅い」イメージが付きまとい、また物品販売も少なく集客の難しさが予想されたが、「どじょうつかみ」や水辺の生き物展示など親子が楽しめる企画の効果もあって、3,000人（主催者側発表）が来館したのは、善戦ではなかったかと思う。（文責：牧内）



ドジョウつかみ



安全でおいしい水ができるまで

「どう取り組むかこれからの新エネルギー」

9月17日（月祝）に開催された「エコメッセ2012in ちば」に於いて、これからの新エネルギーに対して千葉県内での取り組み方をパネルディスカッション形式で討論して頂きました。

登壇者は、森撰氏（(株)オルタナ社長）、松原弘直氏（環境エネルギー政策研究所理事）、小出浩平氏（ワタミエコロジー(株)再生可能エネルギー事業部長）、大石英司氏（みんな電力(株)代表取締役）、司会役の星野智子氏（(一社)環境パートナーシップ会議副代表）でした。

表題の目的は、地球の化石燃料資源埋蔵量として限りの有る資源は未来の人類のためにのみ残す宝とする事です。この活動は、早急に実行しなければならない事で、使っても減らない「再生可能エネルギーの今後の方向性を考える」ことで世界的に動き始め、「50年後にはエネルギーが再生可能エネルギーで自給率100%」というシナリオが掲げられています。

地域活性化も視野に入れた取組で、森氏は「エネルギーと民主主義」、松原氏は「国内外での自然エネルギー活用の現状と可能性」、小出氏は「ワタミグループの風力発電事業参入」、大石氏は「市民としての自然エネルギーの取り組み」のプレゼンの後、「県内での新エネルギー普及施策」のディスカッションが行なわれました。



参加者41名の会場風景



登壇者右から森氏、松原氏、小出氏、大石氏

その内容をまとめると、①コミュニティの再生に自然エネルギーを使う（空き地、古民家）、②行政から屋根や土地を提供してもらう、③行政の取り組みスピードを市民が早める、④建築材として使用出来ない山武杉でバイオマスに、風に恵まれている旭市付近で風力発電増強、⑤房総の天然ガス埋蔵量全国第2位の利用（地盤沈下等対策要）、⑥海洋を生かした取り組みの研究拠点にする、⑦小規模・分散型エネルギーは市民が取り組める、⑧経済効率・コストの考え方を变える、⑨住民参加での自然エネルギーの普及が必要、⑩安心・安全・無駄のない、楽しいエネルギー、⑪新しいイノベーションを作って未来を見る、⑫市民と企業のネットワークをつくる、⑬先進事例に学ぶ勉強会をしよう、等でした。

これらの活動を普及するために主だった地域で協議会を立上げて、法律相談、資金情報提供、行政への提案の出来る中間組織が必要です。

（文責 斎藤）

参考：千葉県の新エネルギー定義
発電分野：太陽光発電、風力発電、バイオマス
発電、中小水力発電、地熱発電

熱利用分野：太陽熱利用、温度差熱利用、バイオマス熱利用、雪氷熱利用
再生エネルギーは上記に大規模水力発電と海洋エネルギーが入ります

平成24年度環境学習指導者養成講座 発展コースも募集開始です。

9月8日から今年度の環境学習指導者養成講座の導入コースが開講して、みなさんがなごやかに講座に参加して下さっています。講座事務局としては、それでひと安心とせず、続いて発展コースの募集も開始してがんばっております。

発展コースは以下に示す5日間(すべて日曜日)の10:00~16:30で、募集定員は30名です。

対象は「環境学習の指導経験のある方」となっていますが、環境保全活動をなさっている方(広い意味で環境学習です)なら大丈夫です。ご遠慮なさらずにお申し込みください。

申し込みの締め切りは11月1日(木)ですが、先着順に受け付けますから、お早めどうぞ。

(講座事務局 小倉)

＜申し込み方法＞

下記の【申し込み事項】について、次のどれかの方法で講座事務局に送ってください。

- ① HPから・・・<http://Kanpachiba.com>
- ② E-mail・・・moushikomi@kanpachiba.com
- ③ FAX (043-246-6969) または郵送

260-0024 千葉市中央区中央港 1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課 気付
環境パートナーシップちば 宛て

【申し込み事項】

- ① 氏名(漢字・ふりがな)
- ② 性別
- ③ 年齢
- ④ 自宅連絡先(住所、電話・FAX、E-mail)
- ⑤ 県主催養成講座 受講経験の有無
- ⑥ 所属団体
- ⑦ 受講希望理由(400字程度)

発展コースの講座の内容

第1回 11月4日(日)

「ちばの環境問題を知る、アイスブレイキング」

- ・オリエンテーション
 - ・千葉県環境学習基本方針について
 - ・千葉県の環境についての概論
 - ・アイスブレイキング(自己紹介ゲーム)体験
- 会場：千葉市美浜文化ホール(千葉市美浜区)

第4回 12月2日(日)

「プログラムづくり」

- ・アクティビティとプログラムの違いを確認する。
 - ・地域特性を生かした環境学習プログラムを作成する。
- 会場：美浜文化ホール

第2回 11月11日(日)

「自然から学ぶ環境学習プログラムー谷津干潟ー」

- ① 環境問題に関心をもってもらうきっかけとしての自然の観察
 - ② 環境学習の場として干潟の魅力、活用方法
 - ③ 環境学習指導者の役割
- 会場：谷津干潟自然観察センター
(習志野市秋津 5-1-1)

第5回 12月9日(日)

午前「プログラムの発表」

午後「学校における環境学習実施、まとめ」

- ・学校における市民の環境学習について、受け入れる学校側からの留意点やアドバイスを受ける。
 - ・修了式
- 会場：美浜文化ホール

第3回 11月18日(日)

「アクティビティ体験」

- ・実際にアクティビティを演じる模擬指導実習を行う。
- 受講生全員が、アクティビティを指導する人、学習する人になって、お互いに学びあい、分かち合う。
- 会場：千葉県文化会館 聖賢堂(千葉市中央区)

公民館にてオイルキャンドル作り

環境学習プロジェクトチーム（環パちば） 竹内 範善

今回の講座は「廃油で作るエコキャンドル」でした。何度か作ったことがあります。私の中では「エコ」というよりも「災害」色を強く感じていました。講座を終えて感じ方が「少し」変わりました。なぜ「少し」かということ、受講した方が持ち帰って本当に使ってくれるか、この先エコキャンドルを作ることがあるのか、疑問が残ったからです。

廃油キャンドルを作る際、私はクレヨンを入れたことはありません。グラスや貝殻で作るオイルランプが原点で、液体を固体にすれば災害時に使いやすいという単純な発想から油凝固材を使うことはあっても、クレヨンまでは思いつきませんでした。

着色は正解です。エコを浸透させるには、実用性だけでなくデザインや遊び心が重要なポイントになります。続けるための魅力ですね。空き瓶のチープさは残りますが、ポイントは押さえていると思います。

廃油キャンドルに限定して考えると、リトライを期待する必要はないのでは。廃油処理や水質汚

染など、エコ意識向上へのきっかけという位置づけで充分だと感じました。小さな体験の積み重ねが、大きな意識に成長していきます。

持ち帰って無理に使ってもらう必要もないでしょう。「使う」にこだわると、家庭から出る廃油の量に対してオイルキャンドルではあまりにも不釣り合いです。インテリアとして飾ることで、エコ意識の持続につながると思います。飾って、見て、考えてもらう。「揚げ物の油は少なめに、残った油は他の料理で、お皿は紙で拭いてから、キャンドルを見たら思い出してね！」こんな感じです。

反省点としては、廃油の処理方法によって環境に及ぼす影響や、キャンドルを作る意義を作成前にはっきりと説明した方がよいのではないのでしょうか。なんとなく、夏休みの宿題作成の感覚で作っていたような気がします。

私が補助したグループは、はじめのうち全くやる気がみられず、一時はどうなることかと思いました。こちらから飛び込んでいく勇気、引き寄せるテクニック、アイスブレイクの力不足を痛烈に感じました。

リサイクル工作「エコキャンドル作り」エコジイ奮闘記

環境学習プロジェクトチーム（環パちば） 井上 國雄

連日の炎天となった夏休み中の8月9日午前10時、千葉市松が丘公民館に地域の小学生男女13名がやってきた。スタッフたちの誘導で工作教室の3つの工作台に着席した。このときエコジイの心境といえば、退職後の人生で初めて、自分の孫以外の小学生たち＝少年・少女たちと会いまみえる場面が来て、ドクターストップ寸前の血圧上昇モードへと突入していたのです。

場面は工作教室に戻り、「エコキャンドル作り」広田由紀江ビッグインストラクターから「さあ、自己紹介していきょうか」と言われ、地域の小学生同士での交流などおそらく初体験の少年・少女たちもどうにか最初のハードルを越えました。

次は家から持ってきたリサイクル工作材料を取り出し、見せあいっこ。リサイクルの食用油のほすが、かなりの数はどう見てもキレイなサラダ油に見える。エコジイはじめ4名のスタッフで3つのグループをサポートして工作が始まった。

最初はエコキャンドルのデザイン描き。わずか4名ほどのグループ内で、早くも「積極派」が現れる。トリコロールカラーに使う配色選択まではもじもじムードが漂っていたのに、いったん採用カラーが決まると、各自持参の廃クレヨンの提供

争いムードに一転。

工程は進み、ガスコンロに点火。鍋に湯を沸かし、用意した空き缶にリサイクル食用油を計量しながら入れます。この後の数工程は広田ビッグインストラクターの「営業秘密」も含め、ショートカット。

時は流れて50分後。各自、家から持参の大小の空きガラスびんにトリコロール配色の、できたて「エコキャンドル」が工作台上に並びました。最後に3つのグループ小学生メンバーがそれぞれお互いの工作台を訪れ、間近に手を取るよう作品を観察しあいっこ。にわかに優劣比べモードとなりかけたところで、勝手知ったる環境学習のステージ運びで、家庭での「廃油リサイクル」話で締めくくり、ゴールとなり、エコジイもほっと一息。

セミしぐれの中、地域の小学生たちは家路に付いたのでした。



リオ+20 報告

一般社団法人 環境パートナーシップ会議(EPC) /
 リオ+20 地球サミット NGO 連絡会事務局 星野 智子

●リオ+20の概要

リオ+20(国連持続可能な開発会議)は、今年の6月20日から22日までリオデジャネイロ(ブラジル)で開催され、国連加盟188か国、97名の首脳及び多数の閣僚級、国際機関、自治体、企業及び市民社会から約3万人が参加しました。G8諸国の首脳はフランスのみ、BRICS諸国は全て参加しました。周辺で行われた市民社会による会合などを含めると、4万5千人、うちメジャーグループ(加盟国以外)は2万人となり、国連最大規模の会議でした。

開催目的として、「持続可能な開発に関する新たな政治的コミットメントを確保し、持続可能な開発に関する主要なサミットの成果の実施における現在までの進展及び残されたギャップを評価し、新しい又は出現しつつある課題を扱うこと」を掲げ、会議の主なテーマは、(1)持続可能な発展と貧困削減の文脈におけるグリーン経済、(2)持続可能な開発のための制度的枠組の2つでした。

会議上では南北の意見対立や、新興国の主張などを含む多くの交渉が難航しましたが、結果として283項目にわたる成果文書「The Future We Want(我々が望む未来)」が採択されました。制度的枠組については新たにハイレベルのフォーラム設置やUNEP(United Nations Environment Programme:国際連合環境計画)の強化に合意したほか、SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)がポスト MDGs(Millennium Development Goals:ミレニアム開発目標)に統合されるべきことに合意するなど、将来の開発の在り方に筋道が付けられました。グリーン経済、制度的枠組については参加国間の考え方に依然隔たりが多い点もあり、今後、更に議論を深める必要があるとされています。

日本政府からは、玄葉外務大臣が「環境未来都市」の世界への普及、世界のグリーン経済移行への貢献、災害に強い強靱な社会づくりの3つを柱とした「緑の未来イニシアティブ」を発表しました。http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyorio_p20/gaiyo2.html

NGOとして注目すべき点としていくつかある中にSDGsがあります。途上国での貧困削減や保健・医療の向上を掲げていたMDGsは2015年为目标年であり、NGOも注力してMDGs達成に関わってきました。SDGsは2015年以降の国連開発アジェンダに整合的なものとして統合すべきことに合意しているため、ますます環境を守り

ながら開発を進めるにはどうしたらいいか、議論が必要です。

その他、企業の持続可能性レポートのグッドプラクティス・モデルの開発が奨励されたことや、持続可能な消費と生産に関する10年枠組みが採択されたことなど、私たちの社会生活・暮らしにも関係が深いことが決まっています。国連で決まったことは政府が国内法や計画に反映させ、それを基に自治体や企業の取り組みも影響してきますので注目しておきたいと思います。

●日本のNGO・市民社会の取り組み

リオ+20に向け、NPO/NGO間の情報共有や連携、他のセクターとの対話を促すことを目的として「Rio+20地球サミット NGO連絡会」が2011年6月発足し、環境パートナーシップ会議(EPC)が事務局を担いました。65団体が加盟し、情報交換会や勉強会、政府との意見交換会や環境大臣訪問などの活動を重ねました。リオ現地には約20団体、70名が出向き、海外NGOとの交流や、会議への参加、提言のアピールなどを行いました。事前と現地での外務省の高官との意見交換によって、NGOの意見も届けられるようになりました。メディアへの情報提供も丁寧に行い、NGOの存在を一定程度アピールできたかと思えます。

また、今回のリオ+20に向けては産業界、労働者、自治体など9つのメジャーグループで構成される「リオ+20国内準備委員会」が組織され、国連の成果文書へのインプット内容を取りまとめるというマルチステークホルダーで議論を重ねていくプロセスを経験しました。92年のリオサミットで決められたリオ原則の精神にあるように、市民が参加し、パートナーシップ型で持続可能な社会を作っていくための対話ことができましたが、まだ十分ではありません。今後も一層の対話、パートナーシップが必要と思っています。

<http://www.epc.or.jp/summit.item.100/pastplans.html>



細野環境大臣訪問



パン・ギムン国連事務総長

花見川のナガエツルノゲイトウの調査に参加しませんか

「ナガエツルノゲイトウ」をご存知ですか？

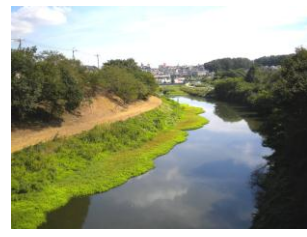
印旛沼や流域の河川の岸辺に、鮮やかな黄緑色の植物が、浮島のような状態で広がっているのを目にします。八千代市を流れる桑納川では、ナガエツルノゲイトウの島が大きくなり、水面が狭いところもあります。

ナガエツルノゲイトウは、水陸どちらでも生育が可能で増殖力が非常に大きいため、特定外来植物（環境省）に指定されています。6年ほど前から、千葉市花見川の河岸でも、ナガエツルノゲイトウが目につくようになりました。早めに除去しなければ、花見川の護岸の植生や景観を乱し、水質汚濁、花見川流域へ拡散して周囲の田んぼに広がり、稲作への影響（コンバインでの稲刈り作業困難他）も懸念されます。

そこで、繁茂している箇所の調査と除去等早めの対応が必要とのことで、4月に花島橋から弁天橋まで、サイクリングロードから歩いて調査した結果34か所の群落が見つかりました（だより85号をご覧ください）。今年2回目の調査を以下の日程で行います。ご参加をお待ちしています。



弁天橋（4月）



弁天橋（9月）

日時：10月5日（金） 9：30～12：00

（集合時間：9：20）

集合場所：天福寺（花島観音山門前）

持ち物：帽子 飲みもの 筆記用具 双眼鏡（自由）
お弁当（自由）

参加費：100円（保険代）

主催：環境パートナーシップちば

<http://kanpachiba.com/>

お申し込み：welcome@kanpachiba.com

お問い合わせ：環パちば携帯 090-5415-9074

※少雨時は実施

※動きやすい服装と靴でご参加ください

※詳しくは「環パひろば千葉」をご覧ください

<http://kanpachiba.com/hiroba/?p=1206>

意思ある寄付を公益性・信頼性の高い地域づくり団体へ助成し、その活動を支援する「ちばのWA地域づくり基金」設立

一般財団法人ちばのWA地域づくり基金 事務局長 志村 はるみ

一般財団法人ちばのWA地域づくり基金は、2012年5月、多くの市民の皆さんからの寄付を集めて設立された「千葉県初の市民立財団」です。市民による地域づくりを市民が支えるために、市民や企業からの意思ある寄付や資源を公益性・信頼性の高い地域づくり団体へつなぎ、その活動を支援することを目的に設立しました。

特定の事業を応援できる「事業指定プログラム」やテーマや地域を選んで寄付できる「テーマ・地域型基金」など、様々な寄付プログラムやチャリティプログラムを実施、信頼性・実現可能性が高く、情報開示や寄付者への成果報告を積極的に行う団体に助成します。寄付から成果達成までのプロセスを可視化し、社会における地域活動の信頼性を高め、相互に地域社会を支え合うための資金の流れを作ります。

今年度中には寄付金控除の対象となる公益財団法人認定を目指し、寄付をしやすくするとともに、助成して終わりではなく、当財団のスタッフと支援を必要とする各団体が一緒になって寄付集めを行い、活動に対する社会的な信頼と支援の環を広

げ、成果を社会に還元していく、「市民による地域づくり活動を市民が支える」仕組みを千葉県に定着させることを目指します。

この秋、当財団の設立を記念して「設立記念助成」を実施することにしました。地域課題の解決と地域の魅力発信という二つの柱を設定して助成を行います。

私たちは、この設立記念助成を通して、公共的な活動を担いうる市民や団体が、地域づくり活動に新たな一頁を加え、響き合う地域づくりを開拓していくことを支援します。この千葉という地域空間において、私たちと一緒に市民に働きかけ、地域づくり活動に奔走できる団体の応募をお待ちしております。

【お問合せ】

一般財団法人ちばのWA地域づくり基金

〒261-0011 千葉市美浜区真砂 5-21-12

TEL/FAX：043-270-4640

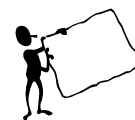
E-mail：info@chibanowafund.org

URL：http://chibanowafund.org

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 12 —

おききました！ この人・この団体

NPO法人環境ネット 理事長 柳澤吉則



環境ネットは、前身が2000年から活動、2003年法人化し、現在個人会員30名、団体会員3団体で活動しています。

1. 環境ネットの生い立ち¹⁾

(1) リサイクル市民懇談会：2000年、千葉市環境局は市民公募でリサイクル市民懇談会を設置しました。この懇談会では、千葉市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の改定に盛り込む内容を、市民の立場から「循環型まちづくり事業の実現化に向けた提言」として提言しました。提言の骨子は、①意識改革と情報基地づくり、②エコショップの基準作り、③ごみ処理費用負担の適正化でした。

(2) 環境ネット準備会と環境ネット推進協議会：懇談会のメンバーを中心に2002年に「環境ネット準備会」、「環境ネット推進協議会」を結成し、「環境情報ネットワーク構想」の検討をしました。懇談会の提言の①は、民間主導で行うとしたからです。2003年「NPOと行政の協働事業に関する提言」をまとめ、千葉市に提出し、行政への要望を行いました。

(3) 環境ネットの設立
上記2つの提言、特に①を実行するため、2004年「環境ネット」として法人化し、以来自主企画講座や見学会など、市民への啓発活動を行っています。

2. 現在の活動²⁾

活動は部会ごとに行っており、現在下記の部会があります。

①環境教育部会、②広報部会、③生ごみ堆肥化の本編集部会、④生ごみ資源化アドバイザー養成部会、⑤分別スクール実施部会、⑥自主企画講座実施部会、⑦見学会実施部会、⑧落ち葉堆肥化支援部会

これまで受託事業として、下記行事などを行ってきました。

生ごみ資源化アドバイザー養成講座（千葉市）、分別スクール（千葉市、千葉市内小学校）、散乱ごみ調査研究（千葉大学）、レジ袋使用削減の広報に関する調査（淑徳大学）、エコ体験スクール「若葉区」（環境財団、落ち葉堆肥化とカブトムシ観察）、県民環境講座（千葉県）、雑がみ分別PR

（千葉市）、生ごみ資源化アドバイザーフォローアップ講座（千葉市）、雑がみ分別体操の製作（千葉市）、生ごみ減量・再資源化講習会（千葉市）、生ごみ減量・資源化料理講習会 他

また、自主事業として下記を継続して行っています。

ごみ関連事業所の見学会、落ち葉・^{せんてい}剪定枝堆肥化支援とカブトムシ飼育支援、生ごみ減量料理教室、家庭生ごみ減量・堆肥化支援

3. これからの活動

環境ネットの活動は、本来目指している「環境情報ネットワーク構想」の実現には道半ばで、本来の目標達成には至っていません。しかし、会員は様々なNPO法人にも籍を持つ、いわゆる「二足の草鞋^{わらじ}」で、他団体との協働を図る環境を自ら備えています。これまで新たな事業発掘と連携・協働こそが本来事業と認識して活動してきました。

今後、皆さんとの協働をよろしくお願いいたします。



ごみ分別スクールの様子

参考

- 1) 柳澤 吉則, 深瀬 茂雄「NPO・市民・学校・市の協働による落ち葉の堆肥化」公共研究, 3(4), 276-283, (2007).
- 2) 環境ネット事業概要 平成24年度版.

運営委員会報告

8月運営委員会

日時 8月8日(水) 17:30~20:30
場所 やちよ市民活動サポートセンター

【報告】

- ・エコサロン7月10日 参加者23名
- ・環境学習指導者養成講座 24年度受託
- ・エコメッセ2012in ちば出展者説明会
- ・千葉市公民館講座実施(犢橋・松が丘)
- ・だより86号発送

【協議】

- ・だより87号
- ・環パ通信(メールマガジン)
- ・リーフレットの作成
- ・印旛沼をきれいにする活動
- ・環境学習指導者養成講座
- ・エコメッセちばプロジェクト
- ・会計より

9月運営委員会

日時 9月3日(月) 18:00~20:55
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・環境学習指導者養成講座(導入コース)
- ・環パちばリーフレット作成
- ・ちばのWA地域作り基金設立シンポジウム参加

【協議】

- ・だより87号
- ・環パ通信
- ・印旛沼をきれいにする活動
- ・エコメッセちばプロジェクト
協働創造市201室の川と水の探検館
展示内容の検討等
- ・印旛沼流域フェアへ参加
- ・ちば環境再生推進委員の推薦

お知らせ

第10回印旛沼流域環境・体験フェア

(第2回 Eポート千葉大会同時開催)

日時: 10月20日(土) 10:00~15:00
10月21日(日) 9:00~14:00(荒天時
中止)

会場: 佐倉ふるさとひろば向かい

目的: 印旛沼に来て、楽しい体験と新しい発見の場
「印旛沼流域水循環健全化会議」の周知と印旛
沼の水環境再生に向けて行動する契機とする。

入場: 無料

主催: 千葉県・印旛沼流域水循環健全化会議

事務局: 千葉県県土整備部河川環境課

TEL: 043-223-3155

E-mail: kawakan2@mz.pref.chiba.lg.jp

第2回 Eポート千葉大会出場チーム募集

(印旛沼流域環境体験・体験フェア同時開催)

Eポートは、初めてでも安全に簡単に乗れる
10人乗りのゴムボートです。

日時: 10月20日(土) 受付開始: 8:30

場所: 印旛沼(鹿島川のほとり)

募集数: 30チーム

(一般の部、ファミリーの部、学生の部)

参加費: 1チーム5,000円

(「水上宝探しゲーム」の参加費も含む)

主催: 第2回Eポート千葉大会-印旛沼-実行委員会

お問合わせ: 印旛沼探検隊内

Eポート千葉大会-いんば沼-実行委員会

TEL: 043-486-5003

E-mail

inbanumatankentai@yahoo.co.jp

再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先: (一財) 千葉県環境財団

業務部環境活動支援課 気付

TEL: 043-246-2180 FAX 043-246-6969

会費納入先: 環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000円 団体 2,000円 賛助会員 5,000円		